

伊 豆 東 部 火 山 群

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○ 概況

・ 噴煙活動

伊東市に設置している遠望カメラでは、噴煙などの表面現象は認められませんでした。

・ 地震活動（図 1、図 2 ①）

10 日から 11 日にかけて伊豆半島東方沖の川奈崎付近、深さ 7～12km 付近を震源とする微小な地震が一時的にやや増加しました。最大地震は 10 日 17 時 52 分に発生したマグニチュード¹⁾ 1.5 の地震でした。地震の増加に前後して、気象庁の体積歪計²⁾ にわずかな縮みの変化がみられました。この付近では、過去に深部へのマグマ注入により地殻変動を伴う地震活動がしばしばみられていますが、今回の活動は規模の小さなものでした。

このほか、伊豆半島東方沖では 1 日、12 日、24 日に震度 1 以上を観測する地震が発生しました。特に、24 日の地震はマグニチュード 4.3 と規模がやや大きく、震源も陸地に近かったことから熱海市網代などで震度 3 を観測しました。気象庁の体積歪計³⁾ や防災科学技術研究所の傾斜計³⁾ 等による地殻変動観測では、特段の変化がみられなかったことから、これらの地震活動は深部へのマグマ注入によるものではないと考えられます。

- 1) マグニチュードは地震の規模を表します。資料中のマグニチュードは暫定値で、後日変更することがあります。
- 2) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。
- 3) 地面の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。

・ 地殻変動（図 2 ②～④）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変動は認められませんでした。

※この資料は気象庁のほか、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

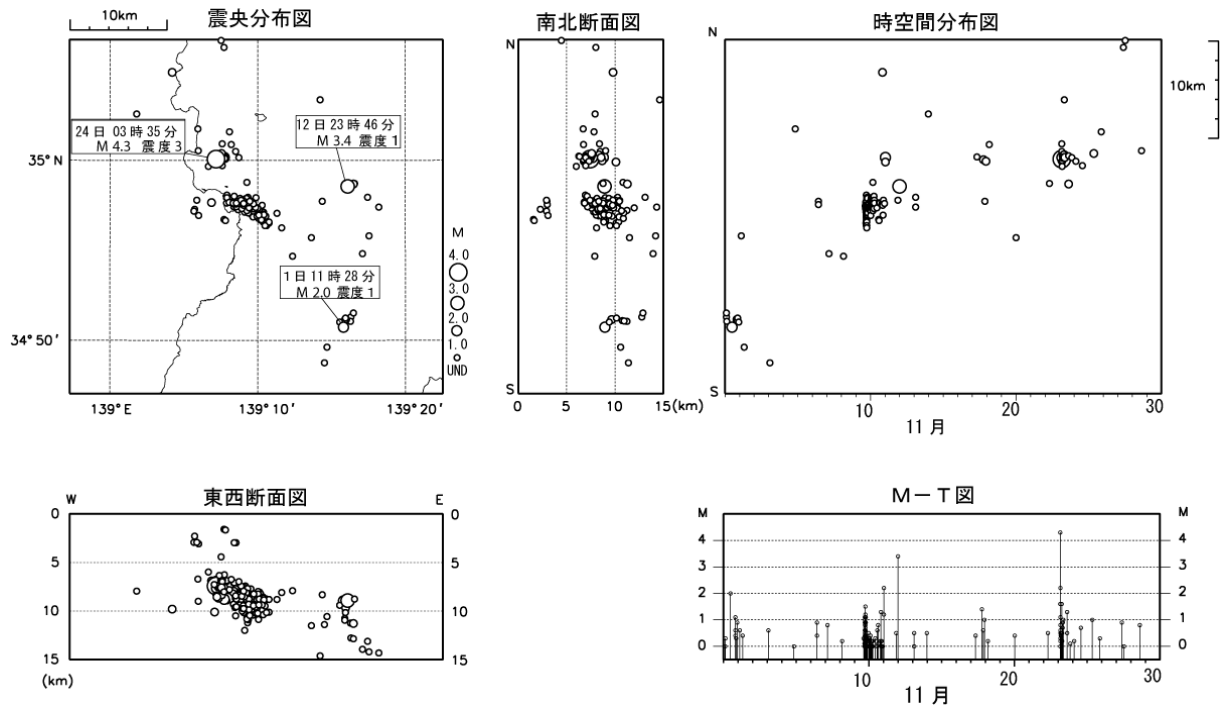


図 1 ※ 伊豆東部火山群 地震活動経過図（2006 年 11 月 1 日～11 月 30 日）

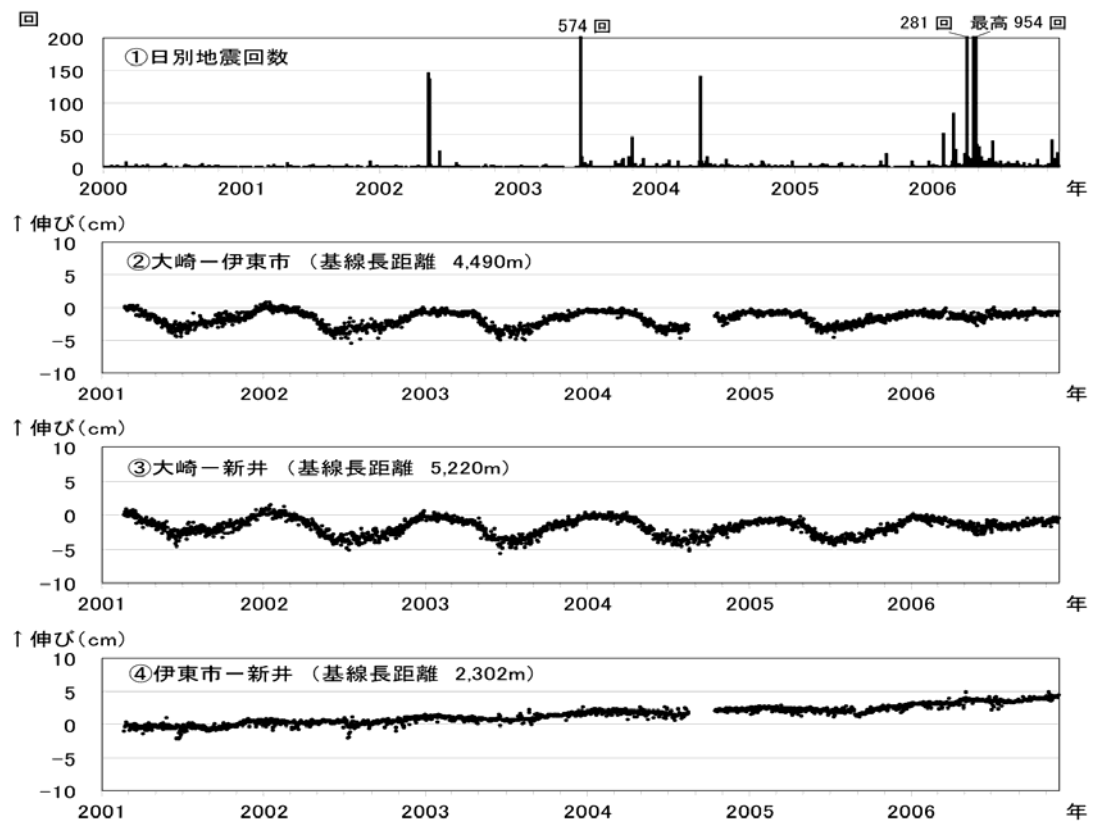


図 2 伊豆東部火山群 最近の火山活動経過図（2001 年 1 月～2006 年 11 月）

- ① 鎌田観測点で観測した日別地震回数
- ②～④ GPS 連続観測による基線長変化（観測開始は 2001 年 3 月）
基線長変化に見られる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。
②～④は図 3 の GPS 基線②～④に対応しています。

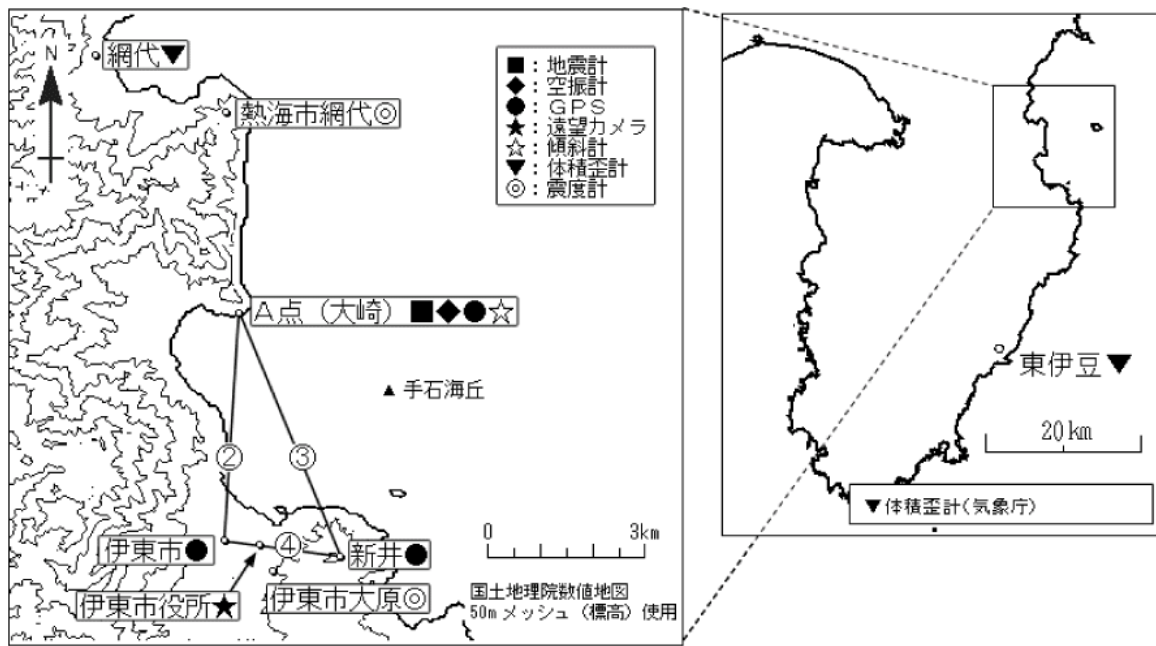


図3 伊豆東部火山群 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
GPS 基線②～④は図2の②～④に対応しています。